

ロードキル対策 ～エコトンネル～

施工ワーキングでは、道路建設による生きものへの影響を最小限にするために、調査をもとに課題を見つけ、解決策を検討しています。その取り組みの1つである「エコトンネル」を紹介します。

ロードキルとは？

ロードキルとは、道路によって動物の移動経路や生活圏が分断され、車両にひかれて死ぬ轢死、ぶつかって死ぬ衝突死、道路わきの排水溝内へ落ち込み溺れて死ぬ溺死、乾燥して死んでしまう乾涸死などで野生動物が死亡することをいいます。



モニタリング（センサーカメラ調査）



相生山にはどんな生きものがいるの？

センサーカメラ調査によって、相生山にどんな生きものが生息しているのかが分かりました。
※施工ワーキングのススメ第60号の特集「相生山の生きものたち～パート1～」もご覧ください。

『タヌキ』を指標動物として、相生山の生きものの変化を見ていこう！

【タヌキを指標動物とする理由】（平成16年時点）

- ★相生山の生きものの中で最も大型で行動範囲が広いと考えられるため。
- ★タヌキが生息できる森は木の実などの食べ物がある豊かな環境があり、他の生きものも生息できることを示しているため。

相生山のタヌキは、弥富相生山線の南側、北側の両方に生息していることが分かりました。



道路建設の課題

道路が開通すると、ロードキルの発生が予想されます。

道路整備に関する課題を解決するのは、施工ワーキングの重要な役割です！

ロードキル対策

1. 柵で防ぐ

- 柵を連続させる
- 柵の下に隙間をつくらない

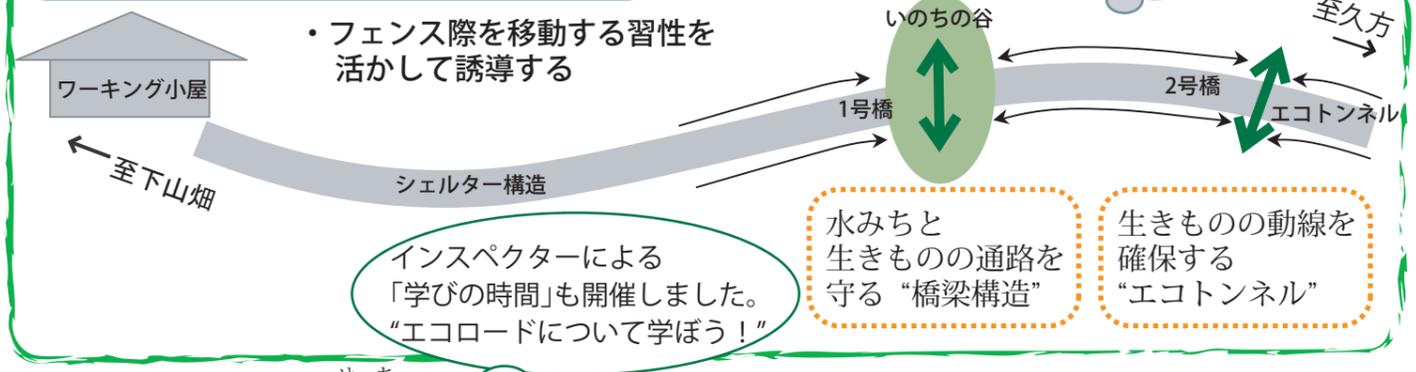
動物の生活エリアを分断してしまってはダメ！！



車がスピードを出しにくいような工夫も必要だね。

2. 安全に道路をわたれる場所をつくる

- フェンス際を移動する習性を活かして誘導する



インスペクターによる「学びの時間」も開催しました。「エコロードについて学ぼう！」

水みちと生きもの通路を守る「橋梁構造」

生きもの動線を守る「エコトンネル」

エコトンネルの設置

エコトンネル実験 平成19年11月

断面の大きさは？
床面の材質は？



人工芝マットを敷いたトンネル



エコトンネル（仮排水管）

コンクリート板を敷いたトンネル

- 足跡を調べたり、センサーカメラを設置したりして実験をしました。
- コンクリート板を敷いた排水管を小動物が通ったことを確認しました。

ボックスカルバートの設置 平成20年7月



出入口を通りやすいように工夫しよう！



スロープをつくって段差をなくしました。



土裏にドングリや種を入れて植生回復を図りました。

モニタリング

現在もセンサーカメラ調査を継続しています。エコトンネル（ボックスカルバート）を相生山の様々な生きものたちが利用しています。



平成23年7月



平成24年6月